

大阪府立たまがわ高等支援学校 平成 27 年度第 3 回学校協議会の概要

1. 日 時 平成 28 年 3 月 16 日（水）午後 1 時 30 分 ～
2. 場 所 大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
3. 出 席 協議会委員 6 名 事務局員 10 名
4. 内 容

〔Ⅰ〕校長挨拶

〔Ⅱ〕報 告

- (1) 平成 27 年度学校経営計画及び学校評価について
- (2) たまがわランド（プレオープン）の実施状況について
- (3) 平成 27 年度学校教育自己診断アンケート分析について
- (4) 今年度の進路状況等について
- (5) 今年度の生徒指導等について
- (6) その他

〔Ⅲ〕協 議

議事録（抄録） 《議事録中、●は協議会委員、○は事務局員です》

〔Ⅰ〕校長挨拶

校長： 本日はお忙しい中、どうもありがとうございます。第二回の協議会までに、開校 10 周年の記念事業などは説明させていただいておりますので、今日はその後のことに限って報告させていただき、協議の時間をとっております。

教頭： 本日の進行は教頭が務めます。よろしく願いいたします。協議に入る際に進行を乾様をお願いしたいと考えています。それでは次第に従いまして、(1) について校長から説明いたします。

〔Ⅱ〕報 告

校長： それでは、(1) 平成 27 年度学校経営計画及び学校評価についてご説明いたします。資料の自己評価の欄をご覧ください。職業科設置の高等支援学校が 5 校体制になります。大阪市立のなにわも、大阪府立になります。平成 29 年度の入試から、全五校が校区も被ることになります。その点、努力が必要と考えています。5 校の協力体制としましては、教務主事や養護教諭の情報交換会なども始まり、情報共有がスタートしています。今のところ、連携について、よくできています。

数値目標のうち、保護者の HP 閲覧率の UP については、4%アップに留まりました。継続目標です。生徒の部活動・生徒会活動の参加率 80%につきました。チャレンジスポーツ部の陸上・サッカー・バスケットの各パートは全国大会にも出場し、陸上は結果も残しました。

会議時間を短縮し、生徒対応の時間の原資とすることにつきました。概ね達成、短縮できました。ただ、職員会議などの大きな会議は短縮できませんでしたものの、分掌によっては、分掌再編にともなう大規模化などもありまして、簡単に時間短縮できなかったところもあります。

- ： (2) たまがわランドプレオープンの実施状況についてご報告します。今年度は、次年度の本格に向けて、課題を洗い出すことなどを行いました。7・9・11 月に実施しましたプレオープンでは、概ね好評・盛会に運営できましたが、課題も出て参りました。7 月、地域の方に多数おいいただき、順調にスタートしました。9 月の土曜日開催では、地域の方に多く来校いただいて、野菜の販売など順調に行えました。11 月の高齢者福祉のハンドケアでは、高齢者福祉施設へ生徒

が行かせていただき、高齢者の方とコミュニケーションしながらハンドケアをさせていただくことができました。

ただ、1月の一汁三菜の取り組みにつきましては、厳しい結果でした。平日で、天候も悪く、校門前には全く人通りがないような状況での開催でした。生徒は一生懸命呼び込みなどをしましたが、呼び込む人が通りさえしない寒い日でした。

また、年間を通じて、産業基礎分野では、木工、調度品の受注生産も行いました。分野によりましては、外部講師の先生にも来ていただき、学習内容を深めることもできました。新しい授業・新しいメニューが大幅に増えた1年でした。またイメージキャラクター「たまちゃん」も生徒たちが投票などで生み出しました。次年度は着ぐるみという企画もございます。

地域への発信ということでは、自治会のみなさま、本当にどうもありがとうございました。地域のみなさまへの情報発信につきましてはのアイデアもいただき、その面でも実りある1年間でした。来年度、本格実施です。どうぞよろしくお願いいたします。

- : (3) 平成27年度学校教育自己診断アンケート分析について：省略(学校教育自己診断については別紙をご覧ください)。
- : 進路状況をご説明いたします。就労率、今年も8割は超えました(53/61)。今年は、飲食店関係が多い傾向があります。福祉施設へも例年に比べ9名と大きな数になっています。未定者も例年より多いです。地域の関係機関：福祉事業所や自立訓練の施設へ計3名が参ります。またまだ就職活動中の生徒も残っています。一部の学校に登校するのも難しかった生徒については、就労以外の選択肢も選びました。就労する生徒のうち、C-STEPにお世話になった生徒は、本校2名、共生4名計6名でした。

ハローワークやC-STEPとの連携に関しては、学校地元の生徒が増えて、地域的に固まってきましたので、工夫が必要な状態になりつつあります。布施のハローワークとの連携強化が必要になっています。

卒業生のアフターケアにつきましては、まず夏休みまでに8期生の就労先を訪問する予定です。就・生活支援センターの方にも同行をお願いして、定着支援を図ります。在校生の実習につきましても、卒業生がいるところをお願いして、アフターケアの充実を兼ねて行えたらとも考えています。

今年度(27年度)だけで、離職者が23名出ましたことは、ショックな数字でした。事情は様々で、また離職してもすぐに別のところに就職した卒業生もありますが、どのような状況で離職にいたったか状況を把握し、今後に生かして行きます。23人以外にも学校へ相談があったケースも多くありました。そちらについては、今のところ就労を継続することができています。

- : 生徒指導・生徒会活動などについてご報告します。まず薬物乱用の取組みです。薬物については生徒集会や保健の授業などで指導しています。最近では、危険ドラッグでの被害が高校生においてもあり、大阪府警からも注意喚起があるところで、生徒にもその旨しっかり伝えました。

生徒会活動では百一首大会が今年も盛り上がりました。今年は、1・2・3年、全学年からトップ3が出るなど、各学年・各クラス・各生徒、それぞれによく取組むことができたと思います。

また、生徒会活動に関して先ほども出ましたが、たまがわランドのキャラクター名を生徒に募集し、「たまちゃん」に決まりました。今後、着ぐるみ作成に発展する見込みで盛り上がっています。

部活動では、チャレンジスポーツ部のサッカーパートが今年度初開催の全国大会に出場しました。障がい者スポーツが盛り上がる機運に、本校もうまく乗ることができています。

いじめ事象についても、時間をかけて取組みました。LHRでの指導のほか、自立活動の時間も活用して、各学年で課題にあわせた取り組みをしました。今後も継続していきたいと思っています。

外部講師を招いての「マナー講座」は、1年生は「服育」、2年生は「ビジネスマナー講座」3年生は「整容講座」を開催しました。特に、3年生の「整容講座」は男子がネクタイの結び方やスキンケアの方法等、女子は化粧の仕方を学び、例年好評です。

生徒指導案件では、スマホ・携帯に関する事案が減りました。指導方法も確立してきたように感じられます。全体的に落ち着いてきた印象ですが、人権に関する指導は継続が大切と考えます。これから課題になるのは、自転車の指導だと思います。大阪のマナーが全国的に見て悪く、違反して有料講習を受けたものの3人中2人が大阪という報道もあります。学校周辺の中河内から通う生徒が増え、自転車置き場が混雑するほどになっておりますので、マナーや安全についての指導が必要と考えています。

教頭： 報告は以上です。協議に移ります。

〔Ⅲ〕協 議

●： では、協議に移ります。学校経営計画などに関してはいかがでしょうか。

●： 高等支援学校の校区が被るということはどういうことでしょうか。

校長： 今年度（H27年度）までの、府立は「大阪市を除く大阪府内」、市立は「大阪市のみ」という枠がなくなり、5校全部の校区が大阪府内すべてになった、府内全域から5校が選べるということです。

●： 選べるわけですね

校長： はい。選択肢が増えたのはいいことと考えています。

●： 自立活動の中身はどんな内容ですか。

校長： 担任・クラスにもよりますが、朝は身だしなみ・あいさつからスタートして、1日の予定の確認などを基本にしています。終わりの時間では、時計や地図の見方、手指の巧緻性のUPなど就労にかかわるスキルアップや、気持ちのコントロール・1分間スピーチ・クイズ形式での取り組みなど、コミュニケーション力向上を図る内容が多くありました。個別の課題への対応も、振り返りシートの活用などで行っています。その他、試行錯誤もいろいろありました。全体で行うことも、個別に行う内容もありました。今年度の取り組みは校内研修で共有します。ただ目先が変わったらい、何でもやればよいというものではありませんので、コミュニケーションや健康管理の能力向上など、目的をはっきりさせて取り組んでいます。

●： コミュニケーション能力や健康管理はぜひやって欲しいところです。自立活動の6領域をしっかり意識して、個別の支援計画の中にも位置づけて取組んでほしいと思います。

校長： 目先ではなく、本当に必要な事と取り組んでいます。校内研修でも充実を図ります。

●： 振り返りシートでのワークですが、家族の方とのやり取りは？ 保護者が確認することなど取り入れていますか。

校長： 保護者との情報共有は連絡帳で行っています。保護者によっては、連絡帳を本当に大変丁寧に先に紹介しました自立活動の時間で使っています振り返りシートは、もっぱら、生徒と担任間のやり取りで用いているものです。振り返りの内容や形式については、個々の生徒によって工夫しています。なかなか、良いものもできつつあります。高等支援学校5校体制になって、他校からも次々欲しいと言われています。

●： 振り返りシートはどのように保管されていますか。

校長： 教室で、生徒の手元にファイルして、貯めていく方式です。

●： 目に見えるものがたまって行くのは良いですね。

●： たまがわが発信されたノウハウは他校にどう伝わっていますか。また最も大きなものは何ですか。

校長： 生徒指導のノウハウです。たまがわでは、発達障がいの場合など、いろいろなケースの事例を蓄積しています。障がいの特性にあわせた、いろいろな対応事例を蓄えているということです。地域の支援学校では、なかなか無いような事例もあります。その蓄積とは別に、生徒指導内規なども作っています。ただそれは、あくまで内規ですけれども、それはあくまで指標で、単純にあてはめて行けばよいというような運用はしていません。蓄積している事例とも照らし合わせつつ、いろいろ考えて運用しています。内規については、他校からもそれをくださいとよく言われますが、書いてあることと、個別の相談後の生徒指導の実際は、往々にして内規とは違うことも説明しつつ、手渡しています。

また、生徒の情報や、事例などをパソコンで入力して様々な情報を蓄積していく仕組みなども構築しています。

これらについても、たまがわ開校のコンセプトとして、「ノウハウを大阪全体に広げていく」ということがありますので、どんどん各校さんへ渡しています。学校行事のやり方なども同じで、どんどん見学していただいています。

●： めざす学校像として、「生徒の特性・適性を正確に把握すること」をぜひ発信して欲しい。すべてはアセスメントから始まると思うので、アセスメントの方法についても発信して欲しい。

校長： アセスメントは、入学予定者の保護者との懇談からスタートして、相談・蓄積・見直し…を行っています。そのやり方についても他校に伝えて参ります。

●： 進路指導や職場開拓、就労支援の具体的な方法もでしょうか。

校長： 進路関係については、高等学校進路指導研究会などで情報発信しています。

○： 高等支援に限らず、広く情報交換しています。

●： たまがわから転勤する人はどこへ行くのですか。たまがわでせっかく身につけられたこと、他の高等支援学校へと思うのですが。

校長： 他の支援学校から、欲しがられているところです。

●： たまがわの先生は、フットワークも軽しい欲しがられますよね。

●： ぜひ、たまがわの先生、他の高等支援学校に広がってもらいたいですね。

●： たまがわランド、来年度が本格オープンですね。

プレオープンの中で、最もうまく行った取り組みはどれですか。

校長： 福祉のハンドケアが一番うまく行った様子です。読売新聞にも取り上げられました。福祉施設に行かせていただいただけでも特筆すべきことです。さらに、高齢者施設のデイケアサービスのところで、好評だったと。高齢者の方々から、若い人とふれあえるということで、とても歓迎されたようです。

一方、バックヤードの定食の日は、本当に天気が悪かった。生徒たちは本当によく考えていたので残念でした。最初に一汁三菜と聞いたときには、もっと質素なものと思っていましたが、生徒たちがよく考えて、本当に立派な定食を400円で出すことができました。もっと宣伝できればよかった、もう少し、うまくPRできていたらと思っています。

●： ぜひということで、試食させていただきました。1コインで、お釣りまであっておいしかった。また生徒のサービスも良かった。取組自身は本当に良かったと思います。ただ、一般の方には、学校というところは敷居が高い。だれでも来られますよとあっても、学校の中には入りづらい。入りが悪かったとのことですが、それが周囲の方の感覚ではと思います。

●： 入りやすく、ですね。事前の宣伝はどうでしたか。

校長： チラシをポスティングしたり、ラミネートしたポスターを掲示したりしました。

●： 地域の女性会などの口コミを活用したらいいと思います。

校長： PTAの方が呼び水になってくださった。ただ地域連携と言い過ぎて、PTAは来たらだめだ

と思われた方もいた。そのあたりも要工夫です。

- : 日頃会わない人と会うのは、生徒にとっては冒険だけれど、とても良い経験だったと思います。知らない人とのコミュニケーションは、子どもたちの成長に繋がります。

校長： 農地のご紹介ありがとうございました。結果、うまくは行きませんでした、もう少しでした。

- : 近くでいいところがあったので、お話をさせていただいたのですが、首尾よくは行きませんでした。学校の教育活動として、農地を使うことはいいことだと思います。地域で子どもたちを育てていくことは大事なことです。

校長： ご協力、どうもありがとうございました。また、よろしくお願いいたします。

- : 絵になる話だと思います。
- : あきらめずによろしく。
- : 喫茶・和定食、食べに来ました。近所の友達と一緒に来ましたが、おいしかったと驚いて、喜んでくれました。PRします。もっと宣伝すべきです。
- : ご協力お願いします。
- : 学校教育自己診断のアンケートの回収率、昨年より上がっていますね。感想でもどうぞ。

校長： PTA活動の数値が下がっているのが気になっています。実行委員会などに参加してくださっている方は活動的で頑張ってくださいているのですが。

- : 保護者が昼間働いていらっしゃるとかで、活動に参加できないとか。

校長： これから、中河内の方が多くなって、学校が近くなっていくので、参加率も上がるのではと。

- : 共生推進教室の保護者は？
- : 入学式・始業式・保護者との懇談会等、機会をとらえて工夫しています。
- : 共生生徒と本校生徒の交流活動は？
- : 授業は別ですが、昼食は本校生徒一緒に食べています。そのほか、スポーツ交流なども行っています。

校長： 交流の時の雰囲気はとてもいいです。

- : 共生の生徒たち、楽しみにしていますか？
- : 正直なところ「遠いので、めんどくさい」などという生徒もいますが、登校したときは、いつも楽しそうにしています。
- : 進路指導、今年も80%ということですが、事務補助が増えているのは良い傾向かなと思います。今後とも、事務補助の求人は必ず多い、増えると思われます。
- : 就職もですが、離職の理由は？ アフターケアの事例など、どうですか。
- : 離職の理由はほぼ対人関係です。実習とは違う内容の仕事で困っていることもなどありますが、ほぼほぼ対人関係です。
- : 離職についての情報、第一報は、どこから入りますか。
- : 本人から、もしくは就業・生活支援センターからの連絡が多いです。
- : 最近は企業の理解が高まってきています。企業から辞めさせられることはまずなくなっています。表面的には、コミュニケーションということになりますが、仕事をするんだという気持ちと、自信が大事だと思います。子ども達自身が、もっと自分自身に自信を持って行くべきです。「働きたい！」というモチベーションを高めていくことが大切です。
- : 就労についての相談、どこから相談されてくる人が多いですか。
- : 就業・生活支援センターからの相談が多いです。会社から直接はあまり多くはないです。
- : 「なぜうまく行かないのか？」という個別の原因をしっかりと分析していくことが大切です。個々のケース、情報を蓄積・分析し、その結果を自立活動や授業にフィードバックしていくことが重要です。最初のアセスメントにもつなげていくべきかと思います。

- : 離職の原因に家庭の場合もありますか。
 - : それもありますね。
 - : 原因は本人・会社・支援機関、いろいろだと思います。会社からは、機嫌よくやってくれたらいい、真面目にやってくれたらいい、という感じであっても、本人が一日中の同じ作業が苦手ということもあります。たとえ、企業側が効率を求めているなくても、同じ作業の繰り返しでは、という場合もあります。
 - : 大学で学生を教えていても、「先輩から話を聞く」という経験が重要だと思います。たまがわでも就職された先輩から話を聞く機会などありますか。
 - : 3年生の6月のバックツアーで、3年生全員がクラスごとに先輩が働いている職場を見学し、先輩の体験を聞くというプログラムを入れています。
 - : いい機会ですね。社会で働くことを伝える機会ですね。
 - : 就労体験は何回位ですか。
 - : 多い生徒は7・8・9回と行く場合もありますが、最低、3年間で5回です。
 - : 10年間たちましたが、就職率は高いし、継続性もある。定着率も良いと見てよい。評価される成果だと思います。続けて行ってほしいと思います。
- 校長： 校内でもキャリア教育について、いろいろ検証しカリキュラムなど考えていますが、外部の意見をもっと取り入れたい。外部からの検証が必要だと思っています。
- : 相談する力をUPさせれば、定着率もあがると思います。自ら相談できる力、SOSを出せる力が大切です。
 - : 相談する力は、本当に大事です。27年度には卒業生本人からの相談が11件ありましたが、今のところ、就労を続けることができています。どうしようもなくなる前に、SOSを出せる力は大切です。
 - : 法の整備もあり、障がい者雇用、広がってはいますが、定着しないこと、全国的課題です。企業側の対応は良い方向に変わってきていますので、学校などでは、本人側の社会に出るという意識をどう作って行くかを課題にして欲しいと思います。
 - : 次に生徒指導についてはどうですか？ 薬物乱用などいろいろやっていますね。
 - : 薬物について、普通に生活していると、薬物についてなかなかイメージもしにくいのですが、たとえば、どうして入ってくるのかとかも教えてくださいか？
 - : 幸いたまがわでは卒業生を含めて、今まで薬物に巻き込まれた生徒はいませんが、危険なことが身近にも潜んでいることを伝えています。大阪府警によると、現在、危険ドラッグを大阪の街頭で販売する店はなくなったとのことですが、ネットでは売られています。高校生などが、携帯メール等で誘われることも起こっていると把握しています。
 - : インターネットとか、生徒たちも使っているので、ご指導よろしくお願いします。
 - : 生徒集会での表彰とは、どのような内容ですか。
 - : 部活動や検定試験などに関する表彰、校内での出席に関する表彰などです。
 - : 生徒のモチベーションを高めるためにいいですね。
- 校長： 式のときは大忙しです。みんなの前で表彰することに意義があると思います。意識を高める効果があります。出席についてのオールブラックス賞とか、一生懸命頑張る動機づけになっています。ほめてあげることは大事だと思います。
- : 生徒支援案件について、件数などはどうですか。
 - : いろいろ些細なことも全部あわせて、把握しているのは120件ほどです。生徒の特性にもよりますが、かつてよりは落ち着いてきています。件数は減少傾向です。
 - : 不登校についてはどうですか。毎日に来ることができない方についてもどうですか。

○ : 学年によって状況も違い、一概には言えませんが、少なくなっているとは言にくい状況です。

校長 : 5校体制になって、生徒の様子は変わってきています。以前1校のときは、むろんいろいろな方がいたわけですが、「就労するという意識」は高くありました。ところが、そういう意識が薄らいでいると感じます。就労一本の指導だけでは難しいところも見えます。

教頭 : そろそろ時間となりました。

校長 : 貴重なご意見、どうもありがとうございました。時間がもう来てしまいました。次年度に向け、たまがわランドや自立活動等についても整理して、学習活動に行かしていきたいと思います。どうぞ、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

教頭 : これを持ちまして、平成27年度第3回学校協議会を終わらせていただきます。本日はご多用の中、どうもありがとうございました。